

## 刊行にあたって



昨年を振り返りますと、川崎市は市制 101 年目を迎え、これまで多様で多彩な人々が築いてきた川崎のすばらしさを引き継ぎながら、市民の皆様とともに、新たな始まりを踏み出す年となりました。一方で、地球温暖化によって夏の暑さが過去最高となるなど、私たちの暮らしを取り巻く環境の変化が強く感じられた年でもありました。

本市の人口は、間もなく 156 万人を迎えようとしており、都市として成長を続けておりますが、その一方で自然動態は減少に転じ、生産年齢人口のピークも目前に迫っているところでございます。人口構造の変化や社会経済環境が急速に変化し、先を見通すことが難しい時代においては、官民のつながりの強化や民間同士の連携をより一層推進し、多様な主体と共創しながら、柔軟な発想とスピード感をもって、時代の変化に即応できるような行政運営も必要でございます。こうした取組を通じ、川崎が日本をリードし、都市のモデルとなるよう、先進的な施策に果敢に挑戦してまいります。

さて、今回発行いたします「川崎市労働白書」は、市内事業所の労働事情を明らかにし勤労者福祉の向上等を目的とする「川崎市労働状況実態調査」と、神奈川労働局や神奈川県等の関係機関から御提供いただいた労働資料をとりまとめた「川崎市労働事情」の2部構成となっております。

仕事と子育て・介護の両立を図る支援の拡充や、カスタマーハラスメント防止措置の事業主への義務化など、働く環境が大きく変化するなか、この冊子が、市民の皆様の福祉の向上及び市内事業所の発展のため、少しでもお役に立てれば幸いです。

結びに、お忙しい中、調査に御協力いただいた事業所の皆様、また、資料の御提供をいただいた関係者の皆様に、厚く御礼を申し上げますとともに、今後とも川崎市政に対しまして、一層の御理解と御協力をお願いいたします。

令和8年3月

川崎市長

福田 紀彦